

氏名(本籍)	瀬尾佳美(東京都)		
学位の種類	博士(都市・地域計画)		
学位記番号	博甲第2453号		
学位授与年月日	平成12年7月25日		
学位授与の要件	学位規則第4条第1項該当		
審査研究科	社会工学研究科		
学位論文題目	The dual decay structure in trade and the environment — Studies in forest resource and agricultural trade — (環境と貿易に於けるデュアル・ディケイ構造 —森林資源と農産物の貿易に関する考察—)		
主査	筑波大学教授	博士(経済学)	土井正幸
副査	筑波大学教授	工学博士	池田三郎
副査	筑波大学教授	農学博士	佐々木康三
副査	筑波大学助教授	Ph. D. (地域科学)	太田充
副査	筑波大学助教授	学術博士	鄭小平

論文の内容の要旨

本論文は、農産物及び林産物の貿易がWTOのもとで急速に拡大するのに伴う環境影響の問題について、理論的・実証的に分析し、政策議論したものである。このような一次資源の貿易によって輸出国、輸入国の双方の環境が負の影響を受ける現象をデュアル・ディケイと名づけ、経済的便益をもたらす貿易の外部不経済性を考慮したものである。

第2章前半ではまず木材貿易を取り上げ、東南アジアの伐採森林資源の半分近くを輸入している日本の問題に焦点を当てている。輸出国たる東南アジアでは伐採により森林消失が起こり、一方の輸入国日本ではこの貿易により森林資源を保護しているように一見見えるが、実はこちらでも林業の経済性が失われ管理放棄による森林の荒廃が目立っている。サミュエルソンの空間価格均衡理論を応用して、木材の価値差から貿易が起こるメカニズムを説明し、ストックフィードバック費用が価格に反映されない場合、過剰伐採により持続可能な貿易が損なわれることを指摘している。

第2章後半では木材パルプの輸入により、廃棄物の半分を占める紙ゴミが急速に増加している問題を取り上げている。輸入国の環境費用を考慮した環境税を処女資源流入段階で課すことを提案し、古紙リサイクルや資源のライフサイクルに配慮した実証分析を行い、社会的限界費用価格形成の水準を推計している。

第3章では農産物の貿易拡大による問題に着目し、前半ではまず日本の米市場拡大などを想定し、輸出国の耕地拡大による森林伐採、そして輸入国の耕作放棄による水田の土壌保全能力低下といったデュアル・ディケイの現象を指摘している。後半では、農産物貿易に伴う農薬・化学物質などの残留の健康リスク問題を取り上げ、輸入国の安全問題のみならず、残留農薬基準などのWTOその他の国際機関による一律な設定により多くの国が互いに影響を受けることから、これを広い意味でのデュアル・ディケイとして政策議論としている。

審査の結果の要旨

資源の価格などに着目した国際貿易の経済研究は従来から活発に行われてきているが、その背後の多岐にわた

る環境問題に着目した問題意識と、その視点から農産物・林産物貿易の各種問題がある程度まとまって政策議論した姿勢に独創性が見られる。目前の経済的な理由だけから貿易を無条件に自由化するのではなく、環境保全や人体安全性や貿易持続性の観点から、価格決定に環境費用を考慮したり、貿易の量・質に制限を加えたりという国際的な配慮が必要であることを具体的事例で示し、今後の国際貿易政策に重要な示唆を与えている。

方法論的に、空間価格均衡理論の理論分析や環境費用推計の実証分析に課題は見られるものの、本論文の関連で応用政策研究関連の査読付学術誌などへの貢献も3編（うち1編は条件付採択）あり、学位論文として必要な水準に達していると判断される。

よって、著者は博士（都市・地域計画）の学位を受けるに十分な資格を有するものと認める。